

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

平2-82920

⑮ Int. Cl.⁵
A 47 J 37/00

識別記号
3 0 1

庁内整理番号
7421-4B

⑬ 公開 平成2年(1990)3月23日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全3頁)

⑭ 発明の名称 自動製パン機

⑰ 特 願 昭63-235229

⑱ 出 願 昭63(1988)9月20日

⑲ 発 明 者	川 邊 勝	大阪府門真市大字門真1006番地	松下電器産業株式会社内
⑲ 発 明 者	石 川 雅 文	大阪府門真市大字門真1006番地	松下電器産業株式会社内
⑲ 発 明 者	佐 藤 周 史	大阪府門真市大字門真1006番地	松下電器産業株式会社内
⑲ 発 明 者	松 田 正 則	大阪府門真市大字門真1006番地	松下電器産業株式会社内
⑲ 出 願 人	松下電器産業株式会社	大阪府門真市大字門真1006番地	
⑲ 代 理 人	弁理士 栗野 重孝	外 1 名	

明 細 書

1、発明の名称

自動製パン機

2、特許請求の範囲

パン材料を入れる容器と、パン材料を混練するための混練手段と、前記容器を加熱するための加熱手段と、前記容器の温度を検知する温度検知手段と、製パンを開始させるためのスタート手段と、前記スタート手段の出力を受けて前記温度検知手段の出力に応じて前記混練手段及び加熱手段を制御して練り・発酵・焼き上げの各工程からなる製パンを行なう制御手段と、前記制御手段に出力し、かつ製パンのあらかじめ決められた途中の工程から開始させる途中スタート手段とを備えた自動製パン機。

3、発明の詳細な説明

産業上の利用分野

本発明は、パン材料を入れて運転を開始すると自動的にパンを焼き上げることができる自動製パン機に関するものである。

従来の技術

近年、自動ホームベーカリー等と称する自動製パン機が販売されるようになってきた。この自動製パン機はパン材料を入れて運転を開始すると、約3～4時間で食パンを焼き上げるようになっている。従来の自動製パン機の操作部を第2図に示す。

この第2図において、1はタイマー製パン時のタイマーセットのためのキースイッチ、2は運転開始のためのスタートキースイッチ、3は例えばタイマー時間を誤ってスタートしてしまった時等に運転を停止させたりするため等に用いる取消キースイッチである。使用者はスタートキースイッチ2を押して運転を開始させるものである。

発明が解決しようとする課題

しかしながら、上記従来の自動製パン機は、スタートキースイッチ2を押してから製パン終了まで約3～4時間かかるという具合に長いため、誤って取消キースイッチ3を押したり、子供が同様に押してしまうと、パンが生地状態のままで自動

製パン機の運転が止まってしまうことになり、この場合、オープン等のある家庭では焼き上げられるが、ない所ではパン生地のまま捨てざるを得ないという不具合点があった。

本発明は上記従来の不具合点を解消することができる自動製パン機を提供することを目的とするものである。

課題を解決するための手段

上記課題を解決するために本発明は、製パン工程のあらかじめ決められた途中の工程から開始させる途中スタート手段を設けたものである。

作 用

上記手段を設けることにより、使用者が誤って焼き上げまでに運転を停止し、パンが生地状態で止まってしまうても、発酵及び焼き上げを再度実行することができるものである。

実施例

以下、本発明の一実施例を第1図にもとづいて説明する。この第1図は本発明の一実施例における自動製パン機のブロック図を示したもので、1

る事が多いため、途中スタート手段7により再度自動製パン機を運転させれば、パンを焼き上げることができるものである。

また、このような自動製パン機では、容器1の形に応じた食パンしかできないが、本発明では、パン生地作りのみ行なって運転を止めた後、例えばバターロール等の形に使用者が成形した後、途中スタート手段7による運転を開始すれば、好みの形に成形したパンも作れることになり、これにより、パン作りのバリエーションも増やすことができる。

発明の効果

上記実施例の説明から明らかなように、本発明によれば、製パン中にパン生地の状態で自動製パン機の運転が停止してしまっても、途中スタート手段により再運転すればパンを焼き上げることができるものである。また容器の形の食パン以外のパンについても、好みに応じて作れるという効果も有するものである。

4、図面の簡単な説明

は容器で、使用者がパン材料を入れるものである。2は混練手段で、前記容器1内のパン材料を混練するものである。3は前記容器1を加熱する加熱手段、4は前記容器1の温度を検知する温度検知手段、5は使用者が製パンを開始させるためのスタート手段である。6は制御手段で、この制御手段6はスタート手段5の出力を受け、混練手段2及び加熱手段3を温度検知手段4の出力に応じて制御し、練り・発酵・焼き上げからなる製パン工程を進行させパンを焼き上げるものである。7は途中スタート手段で、この途中スタート手段7は制御手段6に出力して、あらかじめ決められた製パンの途中の工程から運転を開始させるものである。

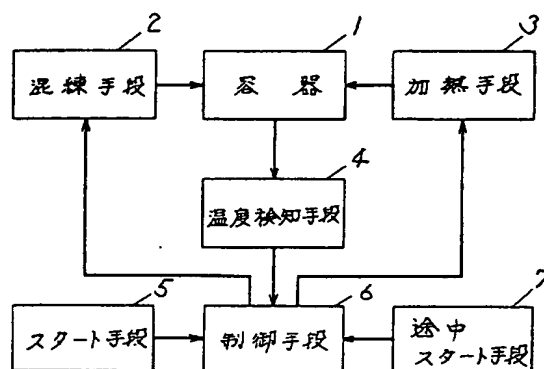
一例として、上記あらかじめ決められた製パンの途中の工程を発酵工程の途中からとする。使用者が自動製パン機の運転をスタート手段5によって開始した後に、取消スイッチ(本実施例では図示せず)等によって製パン工程の途中で止められた場合には、パン生地がある程度でき上がっている。

第1図は本発明の一実施例を示す自動製パン機のブロック図、第2図は従来の自動製パン機の操作部の正面図である。

1……容器、2……混練手段、3……加熱手段、4……温度検知手段、5……スタート手段、6……制御手段、7……途中スタート手段。

代理人の氏名 弁理士 栗 野 重 孝 ほか1名

第 1 図



第 2 図

